カラフルな瓦が目をひく建物が点在する。

天然酵母のパンをつかったカフェメニューが楽しめる「暮らしの選択屋 マワリテメクル」。

SUITA

過去のような、未来のような、〝今の街〟をつくる「南吹田琥珀街プロジェクト」とは?

波板が目立つ、長屋が軒を連ねる集落。古びた下町の風景が広がる吹田市南吹田。この風景を未来に残したい、という想いで立ち上げられたのが『南吹田琥珀街プロジェクト』だ。「まちを新しく変えるのではなく、まちの歴史やそこで暮らす人々の想いを残していきたい」と話すのはプロジェクトメンバーの1人である株式会社川端組の川端さん。南吹田琥珀街は古くから住んでいる人々と、ここを新たな拠点とする人たちが共存するまち。カメラマンのスタジオや、システム/ソフトウェア開発会社の事務所として使われているほか、古民家の風情を生かしたカフェ・雑貨・洋服のセレクトショップ『暮らしの選択屋 マワリテメクル』がある。

またこの4月から街人(まちびと)となった30代の滝井さんは、人とのつながりを持つ場として活用している。週末に大阪市内からスポーツサイクルでやってきて、趣味の音楽や料理づくりを楽しむほか、知人の農家の野菜も販売。「野菜は、人とつながるツールです。野菜マルシェをやっています、と貼り紙をすれば気軽に入ってきてくれる。普段なかなか話す機会のない人たちとの何気ない会話がとっても楽しいんです」と滝井さん。川端さんも「ここは過去のような、未来のような、〝今の街〟。建物はできるだけ変えずに、使う人が代わって街が変わる、みたいなことをやっていきたい」と話す。南吹田琥珀街は、古き良き街並みへの想いを瓦屋根に込めて、新たな街のシンボルとして瓦をカラフルにしている。現在もプロジェクトは進行中で、これからも新たな顔を見せてくれるだろう。

南吹田琥珀街　https://kohakugai.com/

シティライフニュースwebでより詳しい記事を掲載

コラム／COLUMU

梅花から「令和」を込めて

心に留めて、先へ

鬼病が人を苦しめたという歴史は、古くからあります。例えば、天平9年(737)に藤原四兄弟(武智麻呂・房前・宇合・麻呂)を死に追いやったことで知られる、豌豆瘡の流行(巷では「裳瘡」と呼ばれていました。今日の天然痘のことです)。『続日本紀』には、各地で多くの人が亡くなったとあります。外交の窓口であった九州では、2年前からひどかった様子が記されています。今日と同様に、病への対応が求められ、住人には食料などの給付と減税が繰り返されています。いったんは収束したかのようにみえて、人々の往来が、その範囲を拡大していきました。

そうした間の、天平8年(736)のできごとです。病がいまだ潜む九州を通って、新羅へ遣わされた使者たちがいました。奈良の都を出発して、大阪から船に乗り、瀬戸内海を通って九州に入ります。『万葉集』巻十五には、道中で詠まれた歌がたくさん残されています。その中に、九州から壱岐島へ渡った時のこと、鬼病で亡くなった雪連宅満を悲しむ歌が記されています。ご家族は帰りを待ち焦がれているだろうに、出かけようとしている遠い国にも着かないまま、故郷からも遠く離れて亡くなってしまったあなた。あの人はどうしたの?と尋ねられたらなんと言おうかと、作者は嘆いています。末尾の歌では、「世の中なんていつもこんなもんさと別れた、あなたを切なく、私は思いながら行くのか」と結んでいます。

世の中は常かくのみと別れぬる
君にやもとな我が恋ひ行かむ
与能奈可波　都祢可久能未等
和可礼奴流　君尓也毛登奈
安我孤悲由加牟　(15・三六九〇)

ここまでの旅だけでも、時に船が流され、一晩中海を漂った、苦しい旅をともにしてきました。作者は、人生のはかなさを嘆きながらも、友への思いを心にしっかり留めて、自らは先に進まねばならないことを承知しています。歌うことが、その思いを長く伝えることになりました。私たちも、新型コロナウィルスの経験に、さまざまな思いを抱かずにはいられませんが、心して、新たな日常に向き合いたいと思います。

TEXT

梅花女子大学教授　市瀬 雅之

現代訳から原文までを用いて『万葉集』に文学を楽しむほか、『古事記』や『日本書紀』等に日本神話や説話、古代史をわかりやすく読み解く。中京大学大学院修了 博士(文学)。
著書に『大伴家持論 文学と氏族伝統一』おうふう 1997年、『万葉集編纂論』おうふう 2007年、『北大阪に眠る古代天皇と貴族たち 記紀万葉の歴史と文学』梅花学園生涯学習センター公開講座ブックレット 2010年。ほか執筆・講演・講座多数

俳句／HAIKU

5月25日締切りでご投句いただいた中から、山口昭男先生に入選作品を選んでいただきました。

【優秀賞】

瀬がしらの水玉跳ねて夏近し　茨木市　山下美穂子

ゆるやかな流れから瀬になるところが瀬頭です。そこを水の玉が勢いよく跳ねています。見ていて気持ちがやわらぎますが、それが夏のはじめだとさらにという思いです。季語が鮮やかに息づいています。

【入選】

般若経聴いて山寺やまざくら　箕面市　松浦　宣子

「山寺やまざくら」のやまのリフレインが気持ちよく響いてきます。

奥の間に蠅取り下げしニューヨーク　成田市　榊枝　歩

ニューヨークに蠅取りがあっても不思議ではありません。面白いです。

青葉風黄門剣客犯科帳　吹田市　森戸　秀次

季語以外は放映されている時代劇の名。ゆったりと青葉風が吹いています。

水底の金魚トッカータとフーガ　西宮市　宮部志津枝

水槽の底を泳いでいる金魚を見て、音楽を思いました。非凡だと思います。

チィと鳴く名の知らぬ鳥若楓　箕面市　柳　泰子

鳥の名前を知りたくなる時があります。その心を楓の若葉が包み込みます。

【佳作】

春うららに姫になりたやこの金襴　箕面市　松浦　宣子

箱に鳴く仔犬抱ふるこどもの日　茨木市　山下美穂子

マスクして皆異邦人五月憂し　西宮市　井上　未紅

山梨の葡萄激しくゆさぶられ　成田市　榊枝　歩

春うらら汽笛残して貨物船　神戸市　多田　久子

【つぶやき評】

今般のステイホームで、どうしても家にいることが多くなりました。自然を感じる現場に出て行くことが出来なくなったのですが、それでも家で俳句を作ることを勧めます。季語を決め、想像の世界の中で作り続けてください。

SELECT

選者
山口 昭男
やまぐち　あきお

1955年 神戸市生まれ。1980年「青」に入会。波多野爽波に師事。2000年「ゆう」入会。田中裕明に師事。編集担当。2010年俳誌「秋草」を創刊し主宰する。毎月発行。句集に『書信』『讀本』『木簡』がある。2018年句集『木簡』で読売文学賞受賞。日本文藝家協会会員。

【俳句の応募方法】

氏名・住所・年齢・明記のうえ、ハガキ、封書、FAX、下記の応募フォームのいずれかからご応募ください。

[宛先]
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘1-13-23
株式会社シティライフNEW　俳句係まで
FAX 06-6368-3505

[応募フォーム]
https://pro.form-mailer.jp/fms/f413b102177160

※締め切りは毎月25日必着　※いずれも一人5句まで
※掲載は次々号となります
※佳作は掲載をもって発表とさせていただきます。
※お名前と作品を掲載します。

FM COCOLO × CITYLIFE ／ 音楽のCOCOLO Vol.13

FM COCOLOの人気DJが季節やテーマに合わせた音楽を紹介。

radikoなら、パソコン・スマートフォンでFM COCOLOが無料でクリアに聴ける!

FM COCOLOは『25/10 the Encounter』と言うキャッチフレーズで出会いの素晴らしさを再確認するキャンペーンを展開中

10代の頃の私に大きな影響を与えた“出会い”のアルバム

ALBUM
Seven And The Ragged Tiger
–
ARTIST
Duran Duran

万物が動き始めるきっかけを作る『出会い』。10代は洋楽との出会いでもあり、音楽好きになるきっかけになったのが、80年代のUKシーンに登場したアーティスト『Duran Duran』でした。シングル『UNION OF THE SNAKE』は初めて自分で買ったレコード。ジャケットを下敷きに挟んで学校に持って行くだけでドキドキしたものです。少し鼻にかかった歌声のサイモン。妖艶なキーボーディスト、ニック。チャーミングな笑顔のベーシスト、ジョン。小柄ながらパワフルなフレーズを掻き鳴らすギタリスト、アンディ。控えめな人柄とは裏腹にタイトなドラミングのロジャー。TVの音楽番組で観て一気に心を掴まれました。この5人がアイドルとしての存在からミュージシャンとしての認識に変わるのはアルバム『Seven And The Ragged Tiger』を聴いてから。自らが曲を作るバンドと知り、楽曲を聴き込んだり、其々の楽器の音を聞き分けたりしてグッとハマっていきました。ジャケットを見るだけで今でもキュンとする10代での出会いです。

Duran Duran(デュラン・デュラン) / 1980年代ニューロマンティック・ムーブメントの火付け役となり、これまでのレコード・セールスは8000万枚超、全米ヒットチャート・シングル18枚、全英トップ30シングル30枚と、世界の音楽シーンを疾走し続けるデュラン・デュラン。Warner Bros. Recordsと契約し、2015年9月に通算14作目となるスタジオ・アルバム『ペイパー・ゴッズ/Paper Gods』をリリースした。

SELECT DJ

池田 なみ子
NAMIKO IKEDA

10月17日、大阪生まれ。
ライブはもちろん、スポーツ観戦や演劇鑑賞などにも積極的にでかけるアクティブ派。そのいっぽうで着物、歌舞伎、茶道、器、しきたりなど日本の美しいものにも関心が深い。
担当番組は「FRIDAY AMUSIC MORNING」(金曜6:00-10:00)、「SATURDAY AMUSIC MORNING」(土曜6:00-10:00)。洋楽をメインにした選曲の合間に生活情報などをはさみながら、さわやかな朝のひとときをお届けしている。